

研究テーマ

算数をつなげ楽しむ児童を育てる指導

提案者 新井 宏 和

I 研究テーマについて

1 テーマ設定の理由

本校算数科では、算数をつくることを根幹に据え、研究を進めてきた。「算数をつくる」とは、既習を基に自己の考えを進めたり、他者との話し合いを通して、児童にとっての新たな算数を見出すことであると考え。また、ここでいう算数とは、知識、技能は勿論、数学的な考え方も含まれている。このような算数観の下、指導を進めることにより児童は、問題を解決することを通し、算数の内容を学ぶのみならず、数学的な思考力・表現力や算数を学ぶ態度を身に付け育てていく。



これまでの研究では、主に児童の数学的な思考力・表現力を育てていくことを目指し、手立てを講じ、研究を進めてきた。その成果として、既習を基に筋道を立てて答えを導き表現できる児童の姿を見ることができた。しかしその一方で、教師から出された問題には答えられるが、一度表出させた自己の考えを簡潔・明瞭・一般という観点から再び練り上げていこうとする姿や、問題を更に発展させて考えようとする姿はあまり見られなくなった。これらは、「算数を学んでよかった」「算数を学ぶことが楽しい」という情意面での高まりが見られなかったこと無関係とは言えない。「算数をつくる」上で、このような児童の心情を育てていくことは最も大切なことであると考え。これは、自己の指導を振り返り、「知識・技能」、「数学的な考え方」の指導と「数学的な関心・意欲・態度」の指導のバランスに原因があるのではないかと考えたためである。

「算数をつなげ楽しむ児童」とは、既習を基に問題を解決し、算数の教材がもつ価値を実感したり、考えのよさを味わったりできる児童であると考え。本研究では、算数固有の教科の系統性を生かし、児童の「つなぐ」行為（既習と未習とをつなぐ、表現と表現とをつなぐ）に焦点を当てることとした。

2 テーマにせまるための方策

視 点 1

数学的な価値を実感したり、考えのよさを味わうことができるようにする。

〈手立て〉

- (1) 比較検討の場面において、どのように比例関係を用いて問題を解決したのかを話し合いを通して明らかにし、「比例の考え」の価値を実感させたり、よさを味わわせたりする。(授業の実際①「6年 比例と反比例」)
- (2) テープ図から立式の説明ができることを掲示物等を用いて、単元を通じて繰り返し経験するようにすることで、図に表すよさを味わわせる。
(授業の実際②「2年 たし算とひき算」)



視 点 2

見いだした考えを基に問題場面を発展させて考え、新たな問題をつくるようにする。

〈手立て〉

- (1) 本時に学んだ比例関係を用いて解決できる新たな問題場面を考えつくる場を設定する。
(授業の実際①「6年 比例と反比例」)
- (2) 前時までの逆思考の問題場面から、本時の問題をつくるようにする。
(授業の実際②「2年 たし算とひき算」)